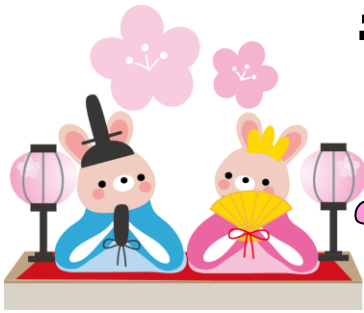


普及センター



もりおか



インターネットでオールカラーの記事が読めるよ!

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第141号平成26年2月25日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6730 FAX 019-629-6739

強い!おいしい!低アミロース水稻品種「きらほ」

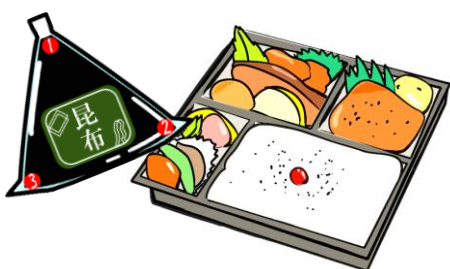
盛岡農業改良普及センターでは平成23年に岩手県農業研究センターで新しく開発された県中北部向け早生低アミロース水稻品種「きらほ」(旧系統名「岩手91号」)について平成24年度から滝沢市内に栽培実証圃を設け、当地域での適応性について検討しています。



低アミロース米の「きらほ」は、見た目はもち米のように白く濁っています。炊き上がりのお米は粘りが強く、またさめても堅くならず、低アミロース米特有のもち臭さも少なく、おいしいとの評価を得ており、お弁当など業務用向けの利用が見込まれるお米です。

品種の特性は出穂期、成熟期は「あきたこまち」よりやや早く「いわてっこ」並みの“早生の晩”で、耐倒伏性は“やや強”、障害型耐冷性は“極強”、いもち病に対するほ場抵抗性は、葉いもちは“やや強”、穂いもち病は“極強”です。病気に強く、倒れにくいので作りやすい品種です。

本年度は滝沢市内の4人の農家が試験栽培を行い、そのうち牧野林地区の1カ所についてJA 新いわて南部営農経済センター滝沢地区担当課の協力のもと、生育調査を行いました。今年度の坪刈り収量は500kg/10a程度でしたが、稈長が短く、倒伏が全くなかったため、次年度は、基肥を増やし、追肥の時期と量を吟味することで、多収を狙う積極的な施肥設計を検討することとしています。



最後に「きらほ」の販売は、用途が一般のお米と異なるので、まだ試行錯誤の段階ですが、関係機関と協議し、今後の需要動向を調査しながら販売戦略を検討していくこととしています。

GAPのすゝめ



そもそも GAP
って何??



GAPとは「Good Agricultural Practice」の略称で「良い農業の実施」という意味です。日本語では農業生産工程管理といい、生産者の「行為」を示すものです。

「行為」って具体的に何をすればいいの??



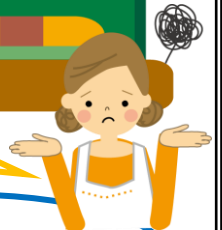
GAP の具体的な流れ
はこのようになります。



~GAPの取り組み方~

- ①農作業の計画を立てましょう!【Plan:計画】
計画を立てて、点検する項目を決めましょう!
- ②今やっている農作業を記録に残しましょう!【Do:実行】
肥料や農薬は何を・いつ・どのくらい散布しましたか?
- ③記録したものを見直しましょう!【Check:点検】
改善できる部分はありませんでしたか?
- ④改善しましょう!【Action:改善】
次年度の作付に反映させましょう!

難しそうね・・・何を点検したら良いかも分からないし・・・



普段やっていることを点検して記録に残してください!
例えば、農薬を使用する際は

- ①ラベルで使用方法を確認したか
- ②いつ、何に、どのくらい使用したか
- ③使用後きちんと洗浄したか

などを点検・記録しておきましょう!

点検項目が思いつかない場合は、

県や全農などの組織が作成しているチェックシートを使用してもよいでしょう。

組織が作成している
チェックシート



(基本様式) 岩手県版農業生産工程管理チェックシート (※単位: 平成 年 月 日)		
目的	項目	チェック
(1) 土壌の改良	有機物堆肥はもとより堆肥・石灰か	<input type="checkbox"/>
(2) 灌漑設備	排水は排水用・コンクリート等の施設を必要に応じて整備 しましたか	<input type="checkbox"/>
(3) 灌漑設備	灌漑設備が壊れたら修理したか	<input type="checkbox"/>

点検して、記録しておくだけでいいの?



重要なのはその記録を見直して、改善していくことです!

問題が起きた時や生育が悪かった時、効率良く作業がすすまなかった時、記録していれば原因が分かります。原因が分かれば、来年生産するとき
に同じ問題が起こらないように対策をたてることもできるでしょう!

記録しておけば、良かったところと悪かったところの見直しができるものね!
問題を見つけて、改善していくことでより良い生産ができるようになるのね!



GAP を行うことで農薬残留や、機械作業事故、農薬飛散、肥料養分流出による環境汚染などのリスクを回避することもできます。
またそれだけでなく、自分が行った作業を見直すことで、作業効率化や省力化、減農薬・減肥などによるコスト低減を図ることもできるでしょう。
また、点検を行うことで安全・安心な農産物として生産者に提供することができ、信頼の確立にもつながります。ぜひ取り組んでみてください!

